

平成27年度第1回 倉敷情報学習センター運営審議会 議事録

日時 平成27年10月7日(水) 14:00~16:00

場所 ライフパーク倉敷 音楽練習室

(委員) 平松 茂, 谷 佳世, 三輪 千明(欠席) 岸下 美恵, 永瀬 芳弘(欠席)

河村 智正, 森本 裕文, 藤原 聡, 三宅健一郎, 藤田 哲彦(欠席)

(事務局) 藤原教育次長, 岡崎参事, 内海副参事

山口情報学習センター館長,

畑中主幹, 林主任, 鷺田主任, 難波主事

1 開会のあいさつ(藤原教育次長)

2 委員, 事務局自己紹介

3 委員長・副委員長選任

平松委員長 河村副委員長 選任

4 会議録署名人選出

藤原委員 木下委員 選出

5 説明及び協議

○事務局より説明

○協議

委員 授業で使うデジタル教材やデジタルコンテンツは、小学校や中学校向けへの整備は進んでいるが、高校の整備があまり進んでいない。また、インターネット上のコンテンツや教材を使おうと思った時、職員室から外へつながるための速度が極端に遅い状況である。

事務局 高校用コンテンツについては、市立高校は、工業・商業・普通科等、多様な校種になっている。そうしたときに、共通で最適なコンテンツは何であるのか研究する必要がある。

情報モラルに関するコンテンツについては、現場から非常に求められていることもあり、平成25年度に高等学校に対しても情報モラル、情報セキュリティのコンテンツを入れている。

その他のコンテンツにつきましては、これから検討していく必要があると認識している。また、教えていただきたい。

また、インターネットの接続に関することで、校務用ネットワークは、セキュリティ上、外に漏れるという危険性を回避するため、インターネットに直接つながる教育用ネットワークとは完全に分けている。そのため、校務用コンピュータは、直接インターネットにつながらない仕組みの中で安全に使用できている。しかし、校務用環境においても、教材の準備等の必要性からインターネットから情報を得る特別な仕組みを使ってインターネットを活用できるようにしている。以前より、その仕組みの速度問

題を指摘いただいております、平成27年9月よりサーバーを更新し改善対策をしたところである。教育用のネットワークは、速度的に十分な速度を確保できている状況にあるので、校務用コンピュータと教育用コンピュータを状況に応じて活用いただくよう、お願いしている。しかしながら、その活用についても課題がある認識がある。例えば商業系の学校からは、フィルタリングの問題で問い合わせがある。

- 委員 フィルタリングは、どのような状況なのか。
- 事務局 フィルタリングルールについては、教育用として子どもたちが使う条件があるため、小学校・中学校・高等学校などのカテゴリを分けてフィルタリングを設定している。8月にフィルタリングを行う仕組みの更新が完了し、分類が変わっている部分がある。そのため、授業に必要なコンテンツにブロックがかかっている場合、連絡・相談により、こちらで設定変更を行う。
- 委員 今のような話を高校の担当者が集まる場で説明していただきたい。そういう機会をぜひ設けていただきたい。
- 委員 図書館の貸し出し数の推移表で、高校の数が提示されていませんが、どのようになっているのか。数字を出していただくことで、使っていこうという励みになるため、検討していただければと思う。
- 事務局 今回、高校の中で使用が十分でない学校があり、データがとれていないため、高校全体の集計として出すことを控えさせていただいている。1校ごとに数値を出すことも可能であるので、今後は提示する。
- 委員 今までこのような会議に出席し、内容を聞いたときに「ICTの整備でどういう成果が上がっているのだろうか」という疑問がある。
- これら事業は、「学力の向上」につながっていくための手立てだと思う。機器導入等で、教員の立場からでは、助かる事はたくさんあるという認識だが、「子どもたちにどのような成果が表れているのか」が分かるようなものがあれば、我々も励みになる。改善された点であるとか、生徒の雰囲気が変わったとか、そのようなものがあればと思う。
- 事務局 児童生徒への成果は、見えづらい部分であると認識している。ただし、教員対象のアンケートを毎年取っており、問い方を変えることで見えるものがあるのではないかとと思う。今後検討したい。
- 委員 公民館等で市民向けのICT講習会を行っているが、市民の方がご家庭で活用しているコンピュータが最新式であることが多いことから、講座で使用するコンピュータが同じ環境であることが求められている。公民館講習用のコンピュータの更新やLLパソコン室の更新の中で、対応して頂いていることがありがたい。
- 委員長 OECDの調査で、「コンピュータをたくさん入れたが、入れただけで何の効果も出ていない」というのが大々的に新聞にも載っていましたが、何かを入れればそれだけで効果が上がる、という問題とは違うと思う。例えば、「お習字が書きたいけど筆が無いから、お母さん買って下さい」「この筆で書いたから、いい字が書けたね」という問題ではなく、導入したものをどのように使うかを考えなければいけない。
- 委員 現在、私たちの生活の中に、当たり前のようにIT技術が入り込んできている。今後もITをなくすことはできない。様々な情報にまつわる課題が出ているが、これもなくなることはない。例えば、自動車も事故が起きるからといって、使わないとはならない。それと一緒に。事故があるという前提で、うまく使うというのが大事と考える。セキュリティに関して事故は起こりえる。また、現在の若者に於いてデータをシェアす

ることや情報を公開するのが当たり前となっている。こうしたことから、使い方の問題や情報セキュリティの課題は避けて通れない。

また、総務省はテレワークを推奨する動きがある。これには良い面や悪い面の両面があるが、使えるものならば、検討していくのはどうであろうか。

また、倉敷では 2016 年伊勢志摩サミット教育大臣会合が開催されるが、この時期に外部からの攻撃を心配している。倉敷市や市内の学校ホームページ改ざん等の対応に十分配慮する必要があると考えている。

委員長 若者のシェアという点については、当大学においても、壁面掲示物を写真にとり、活用しようとする学生がいた。著作物に関する扱いについての注意喚起の張り紙をしたところである。学生に対する情報モラル・情報セキュリティ教育が大切と考えている。

委員 本校では、「eこねっと」の加入率が上がってきている。以前よりも活用している。他の学校も多くなっているのではないかと思う。また、学校図書館システムにおいて、生徒の貸出状況がシステムから簡単に取り出せたり、蔵書内容がわかったりすること、また、それらをもとに図書だよりを作成している。このように、たいへん便利に活用できていることを、本校の司書より聞いている。

委員長 「eこねっと」については、どうなっているのか知りたい。

事務局 「eこねっと」の導入目的は、当初、不審者情報を保護者の携帯電話等に迅速に伝え、安心安全を確保することや学校からの情報を配信し家庭・地域との連携を密にするものとしている。配信登録率は、委員からの指摘があったように、以前と比較して多くなってきている。配信数は、本年度も昨年度同様の推移をしてきている。

委員 幼稚園では、「eこねっと」を使えるようになっていない。小学校から高校までの活用ということから、幼稚園では、普通の Web メールで保護者に必要な情報を送っているのが現状である。

委員長 ところで、自分自身の情報をクラウド上に書き込むようなことが多く行われているが、これらは自分が消さない限りずっと残るものである。便利なようだが、自分が亡くなった後にも残るのはいかがなものかと思っている。自動で消すことができる仕組みがあればいいのだが。このように最近ではクラウド活用も多く使われている。また反面、外部からの攻撃に対するセキュリティ対策なども重要であると聞いているが、どのような状況なのか。

事務局 クラウド活用については、情報を安全に守るという観点が大切である。倉敷市のセキュリティポリシーの範囲内で考えなければいけないことだと認識している、今後検討したいと考えている。

委員 幼稚園でも、情報セキュリティや情報モラルについてしっかり考えていかないといけないと思っている。先生や保護者に対しての研修が必要であると感じている。

委員長 最近、私が行う研修では、子どもたちが使っているゲーム機に対して、保護者が知るべきであるペアレンタルコントロールの機能について扱っている。保護者への啓発が必要と考える。

委員 私は学校において ICT 支援員として勤務した経験がある。そこで感じたこととして、情報モラルについて、「生徒が自分のこととして考えること」が非常に大切であると思っている。スマホなどの登場や普及によって、新しい課題が次々に出てきている。こうした課題に対応していくには、学校において情報モラルに関する最新のコンテンツが必要であると考えている。常に新しくアップデートされたものであることが重要であると思

う。また、若者は情報端末や SNS 等のスキルはあるが、基本的なこと、例えば、日本語そのものの使い方が正しくないことがある。外国の方で勉強されている方のほうが、今の若者より正しく使っていることがある。やはり、デジタルばかりに偏らないことが大切であり、実地のフィールドワークが重要なのだと思う。

委員 中学校において、情報機器に関するトラブルなどがよく起こるが、そのタイムラインに書き込んだことに対して問いただしても、「なぜ悪いのか」という反応が返ってくることもある。このことから、日頃から、情報モラルに対する教育や指導が大切になっているのだと感じている。

委員長 OECDの調査結果が公表されていたが、「ICT機器を多く入れた国で、学力向上と結びついていない」ということが報道されていた。やはり、「ICTが効果的な場面」と「ICTを使ってはいけない場面」がある。ここをきちんと整理して行かないといけないと思う。

また、倉敷市においてICT活用による学力の向上、児童生徒の何かがかわったのがわかるものを示せると良いと思う。今後ご検討ください。

6 閉会挨拶（岡崎参事）

平成27年10月14日

委員

藤原 聡



委員

岸下 美恵

